

平成30年度・第3学期始業式校長式辞

3学期の始業式を迎え、こうして無事に皆さんと再会できたことに心から嬉しく思います。ただいまそれぞれの学年からの代表の皆さんが実に立派に堂々と3学期を迎えるスピーチをしてくださいましたね。蛭川くん、矢内さん、倉元くん、横山くん、とても素晴らしいスピーチをありがとう。特に蛭川くんは川越くんの代理ということでしたが、立派にその任を果たしてくださいましたね。さて皆さんのこの冬休みはいかがでしたか。充実した冬休みでしたか。特に3年生は、間近に迫った入試に向けて、勉強に頑張ったのではないかと思います。あと少しです。最後まで努力を重ねて自分の夢を掴んで下さい。

ところで皆さんは何で勉強するのですか。親や先生が勉強しなさいと言うから勉強するのですか。そんなことを考えたこともありませんか……。私たちは誰でも幸せになりたいと思って生活しています。別の言い方をすると楽しく生きたいと思っています。そのために勉強するのです。勉強をすることが幸せな人生楽しく生きる人生に繋がると思うから勉強するのです。勉強するということは幸せな人生、楽しく生きる人生を掴む一つの手段なのです。しかし誤解を恐れずに言えば、私ぐらいの年齢になると自分だけの努力や経験や最新の知識や情報を得ても、幸せな人生にはならないと分かってきました。どんなに勉強してお金持ちになってもその人が幸せかどうかはわかりません。人は誰でも一人では生きていけないからです。幸せな人生や楽しい人生は、人と人が助け合ったり支え合ったりする中で生まれると思っています。だから人のために頑張れる人、人の役に立てる人になってほしいです。人柄の良い人には、必ず困ったときに人が助けてくれます。そんな人に成長してくれることを期待しています。

そのためにこの3学期、いやこの1年を通して皆さんには「感じる心」を持つてほしいと思います。感じる心と言われてもイメージしにくいと思いますのでいくつか具体例を挙げてみます。例えば、コンビニや高速道路のパーキングエリアに行ったとき、ゴミ箱がゴミで溢れている姿を見たことがありますか。その時皆さんはどうしますか。溢れているゴミ箱に自分のゴミを捨てますか。感じる心があれば、このゴミは誰かが片付けるはずだと感じてゴミを捨てることは止めるでしょう。またどんな提出物にも期限がありますよね。何で期限があるのでしょうか。それは集める人にはその期限を決める理由が必ずあるからです。感じる心がないと平気で期限を過ぎても平気で提出物を出すようになります。また授業中で騒ぐ人もいますよね。感じる心がないと授業でもっと勉強したいと思う人がいることがわかりません。だから騒いでしまうのです。更に聞いた話ですが、塾に通っても真面目に勉強しないという人がいるそうです。塾が遊びの場になっているのでしょうか。感じる心があれば、塾に通う費用はお父さん、母さんが

汗水流して働いたお金が使われていることがわかります。だから決して塾で遊ぶようなことはしません。また世の中ではいじめをする人も後を絶ちませんね。いじめている人は、自分のお父さんやお母さんがいじめをするような人になって欲しくない気持ちがわかりません。小さい頃から大切に育てられた皆さんならそんな親の思いに逆らうようなことはできないはずです。しかし感じる心がないと平気で人をいじめます。人は誰でも自分中心に物事を考えると思っています。わたしもそうです。人の悪口を平気で言うのに人から悪口を言われると怒る人がいます。それっておかしいですね。自分が悪口を言うことは正しく他人からの悪口は否定することのおかしさには気づいていないのです。

今年度のまとめの学期であり次年度のスタートの学期でもあるこの3学期を皆さんには毎日楽しく生活してほしいと心から願っています。そのためにはこの感じる心が大いに役立つと思っています。こうした感じる心は決して生徒手帳にも法律にも書いてありません。常識やマナーや思いやりと言う言葉が当てはまるかも知れませんが、この目に見えない心遣いこそが楽しい毎日を過ごす大きな力となります。西中生の誰もが楽しい日々を過ごせる3学期を期待して、3学期始業式の式辞と致します。

平成31年1月8日

校長 山崎 祐一